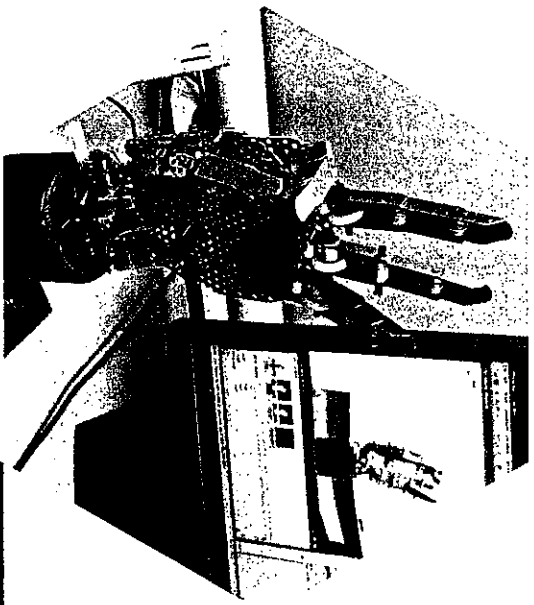
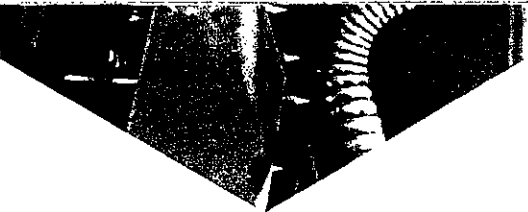


2010



 SYOKUGYODAI





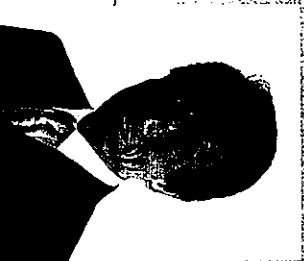
技は知の根源

2008年10月、技能オリンピック国内大会が千葉のポートアリーナで開催されました。

難しそうな部品を手早く加工・計測して組み立てていく、手はもとより目、耳、鼻、時には舌まで使って作業し、そこからの触・視・聴・嗅・味覚のツクナールが脳に繋がって、必死に次の動作を思考している。なるほど、技(ワザ)が脳を動かし、構想し、初めて現実のモノ(技術)を創出していくのだと確信しました。

皆さんが私たち職業能力開発総合大学校に入學されると、このプロセスで技能と技術を体得し、そのメカニズムの不思議を工学の普遍的知識として学んでいくのです。さらに培った技能・技術の知見を確実に他者へ教える方法、即ち指導力を身に付けます。本学は、技能・技術を修得するための実習設備を豊富に備えており、また、少人数による教授陣との対話型授業を可能とする施設なども整備され、丁寧な教育訓練がなされる環境が整っています。

これは、時間のかかる技能・技術の実習が非常に少なく、教室での授業が中心である一般の大学工学部とは大きく異なっています。皆さんが本学で4年間学ばれた後には、間違いなく「ものづくりをハースとする人づくりのスペシャリスト」としての能力が備わり、その証として「職業訓練指導員」資格と学士(工学)称号をダブルで得ることもできるのです。この「つくり」は、日本の立国の源泉です。皆さんが本学で学び、卒業して我が国のもつべき「つくり」に力を発揮されることを期待しております。



職業能力開発総合大学 総長



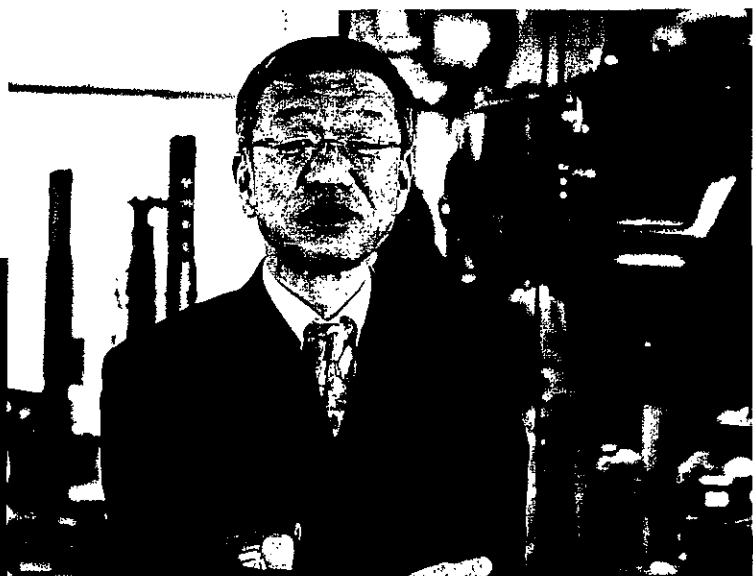
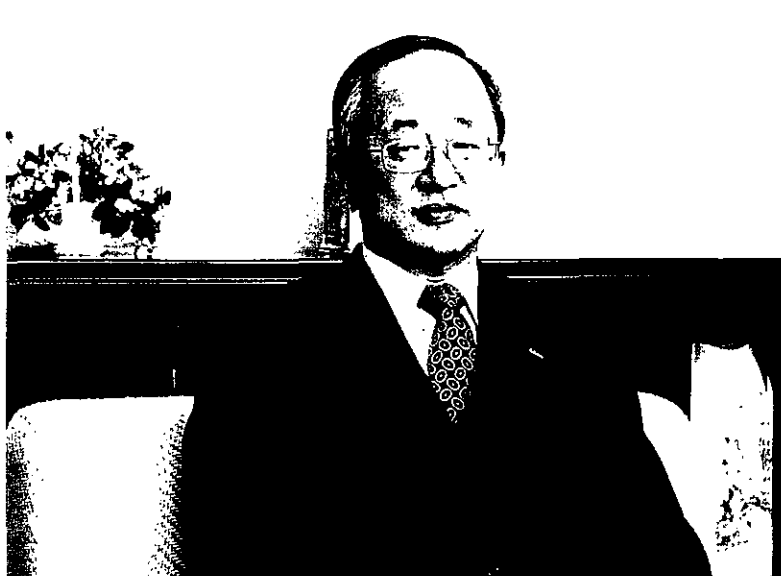
SYOKUGYODAI

目次

校長からのメッセージ	01
シンボルマーク	02
目次	03
卒業生インタビュー	04
職業大の特徴	06
「職業訓練指導員」とは?	08
大学の理念	10
学科解説	12
年次進行－開講科目[単位数]	14
能力開発科目	16
基礎科目	17
長期課程：【機械系】機械システム工学科	18
長期課程：【電気・通信系】電気システム工学科	22
長期課程：【電子・情報系】電子情報システム工学科	26
長期課程：【建築系】建築システム工学科	30
研究課程	34
キャンパス・インフォメーション	36
キャンパスライフ	38
学費・奨学金・学生寮	39
国際協力活動	40
同好会・クラブ活動	41
卒業後の進路	42
年間行事	44
付属施設紹介	45
FAQ - よくある質問	46
アクセスマップ	48

学科解説

キャンパス・インフォメーション



私の人生を運命づけたのは、
同じ電気科の先輩との出会いでした。

日本電産株式会社 代表取締役副社長

小部 博志さん

昭和46年卒業

会社をつくるから来い…社長の永守氏からお呼びが掛かったのは、35年前のことでした。今でこそ世界規模で13万人の従業員を抱える駆動技術のトップメーカーに成長した日本電産ですが、当時はたった4人でゼロからの起業。そんな厳しい状況でも誘いを断れなかったのは、永守氏が職業大の先輩だったからです。入学のために九州から上京した私は、寮での先輩・後輩の關係に縛られるのが嫌で、迷わず下宿を探しました。ところが、この下宿の隣部屋にいたのが、4つ先輩の永守氏。「同じ第一電気科の後輩なら、子分にしたら！」と、このひとことで私の運命が決まりました。創業当初から当社が貫く「3つの精神」のなかに「すぐやる、必ずやる、出来るまでやる」というものがありますが、幸か不幸か、先輩に言われて酒の調達に当てなく夜の町を駆けずり回った学生時代、早くもこの精神を身につけた気がします。私はこれまで営業一筋でやってきたのですが、設立当時の売るものすらない無名の会社など、誰も相手にしてくれません。それでも訪問先を探しては会社のPRをしながら「モーター使っていませんか？」と聞いて回り、使っていればそれを借りて、見よう見真似で安価な同性能のものをつくって、仕事に結び付けていきました。単なる営業なら感性だけでもある程度は出来たかも知れません。でも、こうした「ものづくり」に直結した営業においては、職業大で学んだ技術や技能、そして「ものづくり」に対する姿勢が役立ちました。当社の社是は「我社は科学・技術・技能の一体化と…」ということばで始まります。これはまさに職業大の教育理念に通ずるものであり、その哲学がゼロをトップに急成長させた当社の礎となっているのです。

指導者として最も大切なこと。それを
職業大の教授陣から学びました。

宮城県立仙台高等技術専門校 副校長

加藤 正人さん

昭和51年卒業

職業に必要な基本技能知識を高卒者等に教える県立の高等技術専門校で、副校長をしています。職業大では、塗装科に在籍していました。入学のきっかけは、大学受験用雑誌のとある1ページでした。そのページに職業大の紹介があり、塗装科があることを知り、すぐに受験を決めました。いざ入学してみると、1、2年のうちは基礎的な勉強が多く、授業に追われる毎日でした。3年生になったころでしょうか、自動車や建築関連の塗装にも実習の幅が広がり、特にうるし塗りなどの工芸分野まで手がけたとき、改めて「塗装」の裾野の広さに驚かされました。職業大を選んでよかったことは、なんといっても少人数制であることです。研究室の先生は素晴らしい実績をお持ちの方ばかりなのに、学生一人ひとりにとっても気さくに接してくださいました。こうした先生方の指導を通して、人とのコミュニケーションの術を学び、さらに、人に何かを教えるにはまず相手と信頼関係を築くことが一番大切なのだということも学ばせていただいた気がします。自分が教える立場になっても、これが大変役に立ちました。新米時代は、技能面では実績を積まれた先輩方に、到底かなうはずがありません。そこで私はまず、学生からいかに信頼される先生になるかという自分なりの課題に取り組みました。この際、指導法を学んでいたことも、「教え方は先輩より上手いんじゃないか」という密かな自信につながりました。こうした職業大での経験があったからこそ、自分が担当した生徒たちとも深く関われ、信頼しあえる関係を築けたと思います。



「ものづくりから人づくり」まで学べる
ことが、唯一無二の職業大の魅力です。

独立行政法人 雇用・能力開発機構 神奈川センター
電気・電子系 講師

多々良 敏也さん

平成10年卒業

雇用・能力開発機構の神奈川センターで、家電製品などに組み込まれるマイクロコンピュータのプログラムを中心とした訓練コースの指導に当たっています。求職者向けのクラスでは、この難しい分野の最先端技術を6ヵ月間で習得させなければならないためハードルはとて高くなります。しかし訓練生の才能が開花し、希望の職場に就職できたときは、震えが来るほどの快感とこのうえないやりがいを感じます。さて、私が職業大を選んだ決め手は、高校の先生のアドバイスでした。高校2年の時に父親が亡くなり、経済的理由から国公立しか考えていなかった私に、先生が「ここなら国公立と併願できる上に学費も安い」と、願ってもないメリットを教えてくださいました。職業大は膨大な実習もこなさなければならないので大変な面もありますが、子供のころからものづくりが好きだった私には、機器やものに直接触れることのできる実習の多さは苦になりませんでした。その後、職場の新人教育に携わる中で、そうした経験がとて重要であることを実感し、職業大で行われている実習重視の教育の大切さを改めて認識しました。また、職業大のもうひとつの特徴である指導法の訓練も、日々の指導の大事なベースになっています。就職して間もないころ、「指導員は訓練生の目線で教えなければ意味がない」と先輩から教えていただきました。つまり、訓練生一人ひとりから跳ね返ってくる声をしっかり読み取り、それに合わせた教え方に変えていくことが重要なのです。こうしたときに、心理学なども網羅した指導法の勉強が役立ちます。このように、ものをつくることから人の育成まで学べる学校は、職業大のほかにはないと思います。

実務実習で見つけた私の進路、
今も歩み続けています。

国立職業リハビリテーションセンター 職業訓練部
訓練第一課 電気・電子技術科 職業訓練指導員

大内 夏希さん

平成19年卒業

工学系の中でも異色の福祉工学科があると高校の先生に伺ったことから、職業大に興味を抱き、入学しました。在学中は車椅子や補聴器、自助具といった機器をはじめ、福祉や障害について幅広く学びました。職業大は女子学生の割合がとて少ないのですが、その分、女性同士の仲が良く、助け合える雰囲気が出ています。そのおかげで安心して充実したキャンパスライフを送れました。現在私は、障害者を対象に職業訓練と就職サポートを行う国立職業リハビリテーションセンターに勤めています。ここに就職を希望したのは、仕事も福祉関連に就きたいという思いからでした。とはいえ、職業大に入学した当初から指導員を志していたわけではありません。指導員という仕事を強く意識するようになったのは、能力開発の現場を体験する実務実習という必修授業がきっかけでした。実務実習では、主に知的障害や精神障害のある方を対象にした学科に配属され、集団授業や一对一の個別指導を担当しました。しかし、そのとき初めて指導員の仕事の難しさに直面し、現実には自分の思い通りにならないことを痛感しました。一方、こちらの工夫次第で成果が大きく変わるという、とてやりがいのある仕事だということも知りました。現在勤務する国立職業リハビリテーションセンター電気・電子技術科では、聴覚障害の方の指導も行っています。手話の全く出来ないまま入所した私ですが、訓練生の方々から教えていただいた手話を用いて授業にのぞめるようになりました。今後も実務実習で得た経験を大切に、指導員という仕事に向きあっていきたいと思っています。

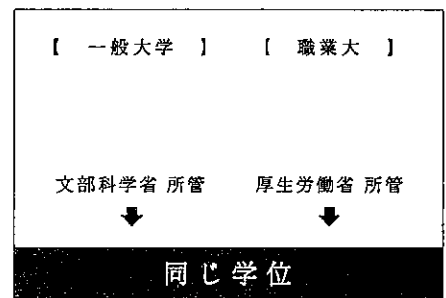
職業大はある目的のために設立されました。 それは優れた「職業訓練指導員」の育成です。

日本の産業界では今、高度な技術や実践力を備えた人材の育成が、今後の発展を左右する課題となっています。その先導的な使命を担っているのが、国や都道府県の職業能力開発施設等で指導に当たる「職業訓練指導員」です。職業大は、この「職業訓練指導員」の育成という明確な目的のもとに設立されました。指導者となるには技術や技能はもちろん、コミュニケーション力やプレゼンテーション力など、多様な能力が求められます。こうした多角的な能力開発を総合的に実践しているのが職業大なのです。また、その成果は資格の取得という形でも提供されます。長期課程卒業時に「職業訓練指導員」の免許が授与されるのも、本校の大きな特徴のひとつです。



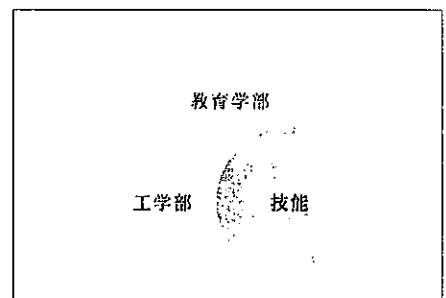
大学ではなく大学校とは？ 厚生労働省が管轄する職業大だからこそできることがあります。

「大学」が文部科学省の管轄下にあるのに対し、それ以外の府省が管轄している高等教育機関が「大学校」です。なかでも厚生労働省が管轄し「独立行政法人 雇用・能力開発機構」が運営する職業大は、職業訓練、特にものづくりの教育訓練に携わる人たちのための教育訓練と研究を課題に、高度な技術・技能のみならず、人材育成にも精通した能力の育成を使命としています。しかも、こうした専門的な能力開発だけでなく、文部科学省の大学設置基準に準じた大学と同等の教育も施されています。このため、長期課程卒業時には「学士」、研究課程修了時には「修士」と、一般の大学や大学院と同等の学位が、大学評価・学位授与機構から審査のうえ授与されます。



「工学部」「教育学部」で学ぶこと、実践に即した「技能」。 この3つを全て習得できます。

職業大では、「ものづくり、人づくり」をキーワードに「科学・技術・技能の融合」を目指した教育を実践しています。ものをつくるために必要な科学・技術を学ぶことは、工学系の大学でも可能です。指導者として人に教えるノウハウは、教員養成課程を擁する大学でも習得できます。しかし「ものづくり、人づくり。」を課題とする本校では、工学部で学ぶ「ものづくり」と教育学部が提供する「人づくり」の教育訓練、この両者を同時に行います。さらに他校にはない特徴として重視しているのが、「技能」の研鑽です。学びを机上のみで済ませるのではなく、実技・実習を通じた実践的な「ものづくり」を鍛錬することで、即戦力となる力を育て上げていきます。



授業時間の差が学びを実践力に育て上げ、 現場に即した揺るぎない実力へと進化させます。

本校のカリキュラムは、「ものづくり」に欠かせない知識や技術の習得にとどまらず、実践に即した「技能」の研鑽、さらには人材育成を担う指導者としての「教育訓練」をも網羅する豊富な内容で構成されています。このため授業の時間数は、他大学と比較すると膨大なボリュームになっています。特に「技能」を磨くための実験・実習には多くの時間を割り当て、経験を重ねることで、実際の現場で活かせる力を育て上げていきます。のんびり遊びに興じている暇はありません。しかし、本物の力を身につけたいという向学心には応えることが出来ます。これこそが本校が推進する教育であり、技術・技能を自分の実力として培うために欠かせないことなのです。

◎職業大の科目構成(計178単位)		
基礎科目+ 基礎実技 (34)	専門科目(学科+実技) (112)	能力開発 科目 (30)
◎一般大学の例(計124単位)		
一般教養科目 (48)	工学科目(学科+実技) (76)	この差が、 確かな実力に つながります。
※計176単位に任意の2単位を加えて卒業時総取得単位数となる ※平成21年度科目配当表に基づく		

圧倒的な就職率の高さは、高度な技術・技能、そして確かな実践力が 培われている証拠です。

急速に展開される技術革新や世界的に広がるグローバル化により、我が国の産業構造や技術・技能者へのニーズも大きく変化しています。しかし、どの時代においても普遍的に求められているのが、ものづくりの基礎となる「技術」、実際の現場で実践力として活かしていくための「技能」、そして人づくりのための「技術・技能を伝える能力」です。職業大が主要な教育要素として掲げるこれらの能力を持った人材への要請は、職業訓練指導員をはじめとして、国や都道府県の公務員、各種団体の職員、そして多様性と柔軟性、応用力を兼ね備えた即戦力を求める民間企業など、官民を問わず幅広い場で活躍が期待され、その優れた能力と実践力が高い評価を受けています。

>> 主な就職先一覧	
・都道府県立職業能力開発施設・(独)雇用・能力開発機構	・(独)高齢・障害者雇用支援機構
・法務省	・中央労働災害防止協会
・キャンノン(株)	・(株)きんでん*
・J R東日本(株)	・住友林業(株)*
・積水ハウス(株)*	・(株)デンソー*
・(株)豊田自動織機*	・日本電産(株)
・富士電機システムズ(株)*	・パナソニック電工(株)など
*企業内に「認定職業訓練施設」を設置	

職業大ならではの教授陣と充実した施設。 真剣に学ぶための万全の環境を用意しています。

職業大では、職業訓練指導員を目指す学生のために、「人づくりのための指導力」と「ものづくり力」の両方を兼ね備えた本学ならではの教授陣が、質の高い教育を実現しています。また、職業訓練指導員に必要な指導力、実践力を習得するために最先端機器を備えた実習施設を完備し、キャンパス内には図書館、スポーツ施設などの充実した付属施設や学生寮を設け、学生のみなさまが安心して学業に打ち込める環境を用意しています。



1

職業能力開発を支える専門家

仕事の技術や技能を新たに身につけたり磨いたりすることを職業能力開発といいます。職業能力開発は、職を求めている人たちが仕事を得るための、また働いている人たちがその仕事をレベルアップするための大切な取り組みです。このような取り組みは、個人の生活の向上はもとより、企業や産業の発展にも貢献しています。職業訓練指導員とは、スポーツ選手が高い能力の獲得を目指すときにアドバイスを受けたり相談したりするコーチのように、職業能力開発の場において、自らの仕事を行う能力を高めようとする人々の取り組みを支えている専門家なのです。

2

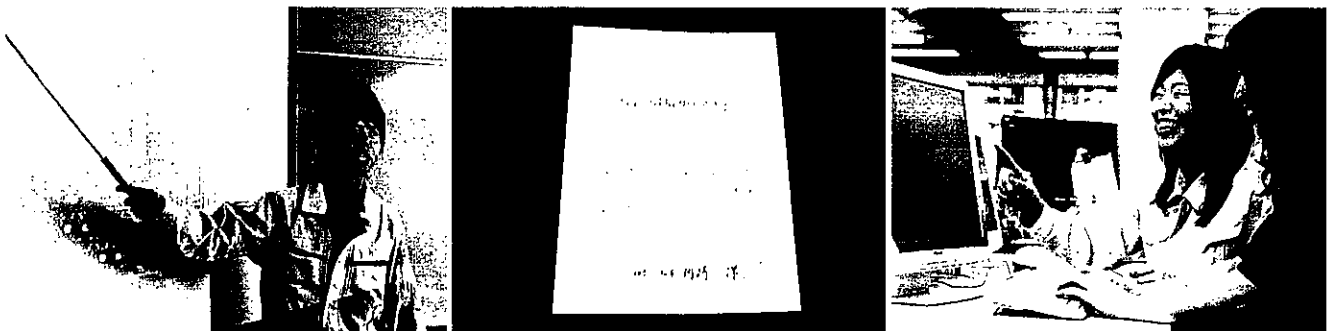
法律に基づく職業訓練指導員免許

国では「職業能力開発促進法」という法律で職業能力開発のための活動を推し進めています。その法律に基づいて、都道府県知事が職業訓練指導員免許を交付します。免許の所持者は、仕事に必要な知識や技術・技能に習熟し、さらに仕事を人に教えるための専門的な能力も兼ね備えていることを公的に認められているのです。職業能力開発総合大学校は、この職業訓練指導員免許を卒業時に取得できる日本で唯一の教育機関です。免許は職種で分けられていて、本校で取得できるのは、産業界で需要の多い機械、電気、電子・情報、建築などの職種にかかる指導員免許です。

3

職業訓練指導員の活躍する場

職業訓練指導員の活躍の場は、「公共職業能力開発施設」と「認定職業訓練施設」の大きく二つに分けられます。どちらの施設も法律で定められた基準によって職業能力開発を実施しています。「公共職業能力開発施設」は国や都道府県が設置している施設で、「ポリテクセンター」、「高等職業技術校」、「技術専門学校」など様々な呼び名で知られています。このような施設は全国に約300カ所あります。一方、「認定職業訓練施設」は企業や産業団体が設置しています。主に若い従業員を育成するための施設で、自動車や電機などのメーカーが運営する大規模なものから、中小の企業が共同で運営するものまで多種多様です。全てを合わせると全国で約1300カ所にもものぼります。



職業訓練指導員と学校教師との違い

4

職業訓練指導員と一般の学校の教師とでは、役割はどのように違うのでしょうか。学校の教師は、将来就くであろう様々な進路の基礎となる教育を生徒に行います。これに対し、職業訓練指導員は、主に仕事で活用できる技術や技能の習得を目的とした教育訓練を受講者に行います。また、その対象となる受講者は、中学や高校を卒業して専門的職業に初めて就く人たち、一人前になることを目指している若い従業員、現在の仕事の能力をさらに高めたい在職者、新たな仕事を求めている離職者・転職希望者など、幅広い方々となります。

職業訓練指導員に求められる能力

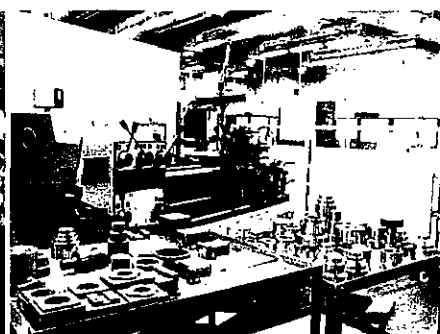
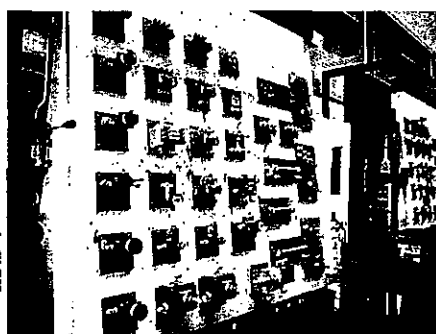
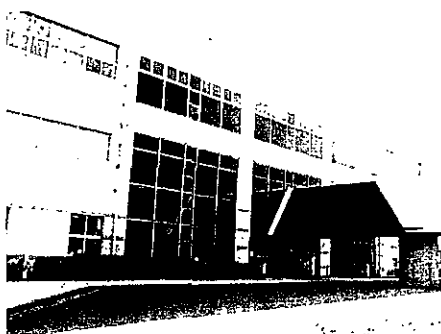
5

職業訓練指導員は、仕事の専門的な内容に関わる知識や実際に行う能力だけでなく、さらにそれを他者に伝えることのできる能力も持っていなければなりません。このため、職種に求められる理論や原理、技術的な事柄などの豊富な知識を身につけることはもちろん、実際にその仕事で必要とされる作業を行う能力、そしてそういったことを相手にわかりやすく説明するプレゼンテーション能力などを身につけることも大変重要です。

ますます広がる職業訓練指導員の仕事

6

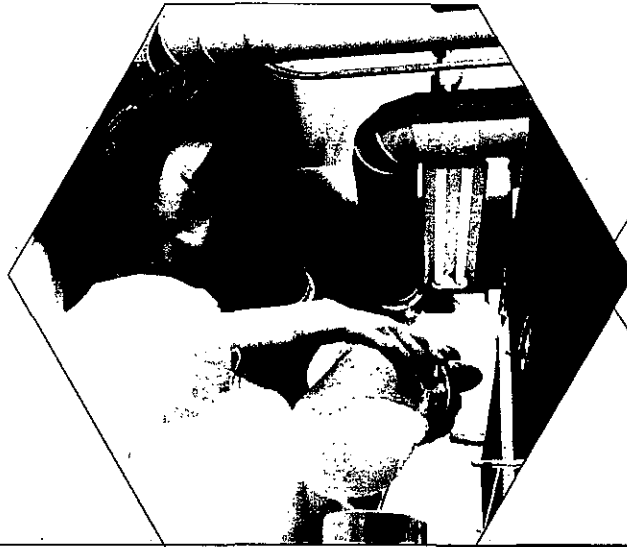
職業訓練指導員の中心的な仕事は、様々な方々の仕事に関わる技術・技能の習得を手助けすることです。それに加えて、公共職業能力開発施設で働く職業訓練指導員に欠かせない業務が、企業やハローワークと情報を交換しつつ受講者を就業へと導くことです。特に近年、その重要度が増してきています。さらに、地域産業や技術の動向を調査・分析して、新たな職業能力開発のコースやメニューを企画することも重要な業務のひとつです。また、企業で働く認定職業訓練施設の職業訓練指導員には、変化する個々の企業のニーズに常に対応したコースやメニューの開発が求められます。このように職業訓練指導員の業務は、今日の社会に貢献する仕事として、活躍の範囲がますます広がっているのです。



職業大はこう考えます

現代社会の豊かな生活は、高度な技術と卓越した技能による「ものづくり」の上に成り立っているといても過言ではありません。そして、それを支えてきたのは優れた技術者たちです。職業大では、人間が暮らしていく上で重要な「ものづくり、人づくり。」のための教育を行っています。なかでも「ものづくり」に

おいては、本校のシンボルマークが表わす「科学・技術・技能の融合」を最重要視しています。学問的側面から「ものづくり」を理解する「科学」。具体的な実践力へと応用した「技術」。どちらも、「ものづくり」を学ぶ上での基礎的な土台として欠かせません。ただ、これだけでは、実際に自分の手でものをつくり



科学とは…

「ものづくり」において、学問的な角度から基礎となっているのが「科学」。すなわち、実験や理論によって裏付けされ、体系立てて整理された知識です。大きなビルディングがしっかりとした土台の上にしか建てられないのと同様に、発展的なものづくりを展開するには、この科学を学んで地固めしておくことがとても大事です。

技術とは…

「技術」とは、「ものづくり」に欠かせない学問的な知識や理論を応用し、実際の現場で活かせる形に転化させたもの。学問的な知識に知恵を加えて編み出した「わざ」や、理論をもとに工夫を凝らして開発した「方法」です。産業界を飛躍的な発展に導いた日本の技術力の高さは、「技術立国」と称されています。



技能とは…

体験して初めてわかることは少なくありません。「ものづくり」においても、実際に機械に触れ、道具を使い、やってみたら得られる力があります。これこそが、自分の手でものをつくりあげる上で最も重要な「技能」です。頭だけでは習得できません。実践を通して身体の中に培い、日々磨き続けることでのみ向上できる能力です。



だすには事足りません。知識や理論を実践に活かす能力、すなわち「技能」の習得が必須です。つまり、頭で学んだ「科学・技術」に、身体に覚えこませた「技能」が伴ってはじめて、実践的な「ものづくり」が可能になるのです。さらにそこに「創意工夫」がプラスされることで、「技能」は飛躍的に向上。「科学・技術」の進化への原動力ともなります。



職業訓練とは…

自らが学んだことを人に教えるためには、指導者として様々な能力が要求されます。相手の気持ちに配慮しながら伝えるコミュニケーション力、効果的に伝達するためのプレゼンテーション力、産業界のニーズを的確に捉えてプログラムにまとめあげる企画力など、学ぶ側とは全く異なるスキルを培うのが「職業訓練」です。

創意工夫とは…

「ものづくり」を斬新な未来へと導くのが、創造性豊かなアイデアやオリジナリティーに富んだ発想です。ひとつの事柄にその人ならではの角度から目を向け、個性的な切り口で新しいものへと形作っていく「創意工夫」。ちょっとした気付きや疑問、「おやっ?」「あれっ?」がユニークな「ものづくり」の世界を切り開きます。



ものづくり、人づくり。

職業訓練指導員の養成を目的とする本学では、「ものづくり」を人に伝え、次世代を担う人材育成に当たるための「教育訓練」に力を入れています。これが「人づくり」です。

人に教えることで自らが学んだ「ものづくり」への理解が深まり、それが教える側としての

「人づくり」にも活かされます。「学ぶ」と「教える」に同時に取り組むことにより、

両者を相乗効果的に習得できる教育。これこそが「ものづくり、人づくり。」なのです。